

2. 熊本県の農業・農村の情勢

2 - 1. 熊本県の農業・農村の現状

1. 本県農業の現状

県内では、恵まれた気象条件と変化に富んだ地形を生かし、多彩な農産物の生産が行われており、いぐさ、デコボン、なつみかん、トマト、宿根カスミソウは全国第1位の生産量となっています。また、農業生産の主要な担い手である認定農業者数は全国第3位、農業算出額は全国第7位など、国内でも有数の食料供給基地としての地位を確立しています。

表 - 全国に占める熊本県農業の地位

区分	単位	全国	九州	熊本	全国に占める地位		
					順位	割合	
農家戸数(17年)	千戸	2,848.2	421.1	74.2	16	2.6	
認定農業者数(18年12月末)	千人	219.4	47.7	10.8	3	4.9	
農業専従者数(17年)	千人	1,680.4	301.2	68.4	3	4.1	
基幹的農業従事者数(17年)	千人	2,240.7	379.5	82.0	6	3.7	
耕地面積(18年)	千ha	4,671.0	570.0	119.8	13	2.6	
農業算出額(17年)	億円	88,058	16,800	3,102	7	3.5	
生産農業所得(17年)	億円	32,632	5,652	1,136	8	3.5	
1戸当たり農業所得(17年)	千円	1,235	1,318	1,593	9	対全国比 129.0	
主要農産物の生産量(17年)	いぐさ	千t	…	…	14.1	1	…
	不知火(デコボン)	千t	…	…	18.1	1	…
	なつみかん	千t	61.7	…	14.5	1	23.5
	すいか	千t	450.2	…	60.7	2	13.5
	トマト(18年)	千t	726.3	154.0	86.0	1	11.8
	宿根カスミソウ	千本	67,500	…	21,300	1	31.6
	メロン	千t	241.8	…	32.2	3	13.3
	くり	千t	21.8	…	1.8	2	8.3
	葉タバコ	千t	46.8	21.5	5.1	2	10.9
	いちご	千t	196.2	63.9	13.2	3	6.7
	なす(18年)	千t	372.4	74.1	33.6	2	9.0
	トルコギキョウ	千本	119,600	…	12,200	2	10.2
	みかん	千t	1,132.0	369.2	101.0	4	8.9
	肉用牛(18年)	千頭	2,755	1,010	142.5	4	5.2

資料) 農林水産省「農林業センサス」「農業構造動態調査」経営局調べ「作物統計」「生産農業所得統計」「農業経済統計調査」生産局調べ「野菜生産出荷統計」「果樹生産出荷統計」「畜産統計」「花き調査出荷統計」「特産果樹生産動態調査

注) 主要農産物の生産量の欄の…は主産地県のみ調査されている作物。(順位は主産地県中の順位)

2. 基幹的農業従事者数の推移

基幹的農業従事者数は、後継者の減少や高齢化の進展によって減少傾向にあります。
 年齢別では、50歳代以下の人口は年々減少傾向にありますが、65歳以上の人口は増加傾向にあり
 全体で最も割合が高くなっています。

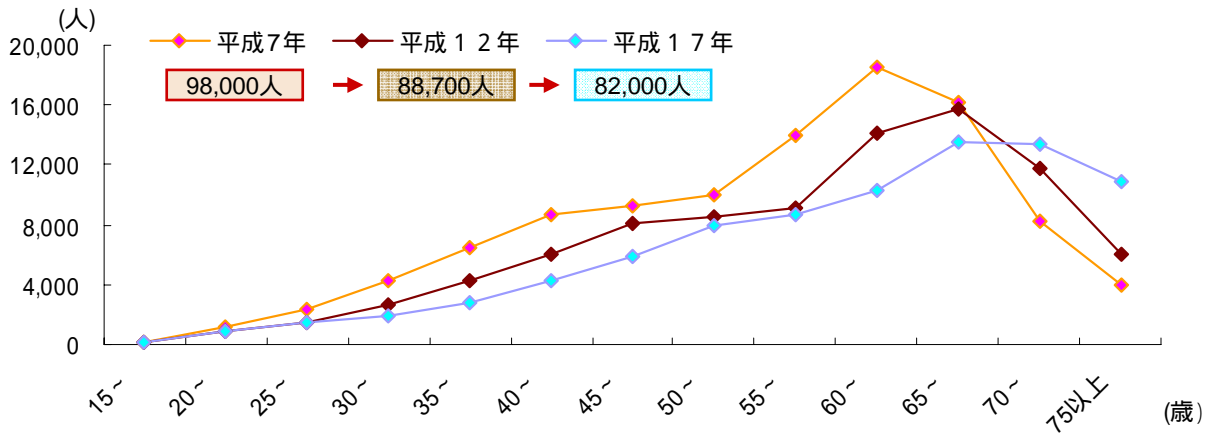


図 - 基幹的農業従事者数の推移

資料) 農林水産省「農(林)業センサス」、「農業構造動態調査」

3. 農地の現状

農地面積は、住宅、その他建物施設用地等への転用が進んでいることなどにより、減少が進んでいます。
 平成12年度以降は毎年1.0%~1.3%の率で減少してきましたが、平成18年は減少率0.5%(田0.3%、
 畑0.8%)となっており、17年に引き続き減少のテンポは緩やかになっています。

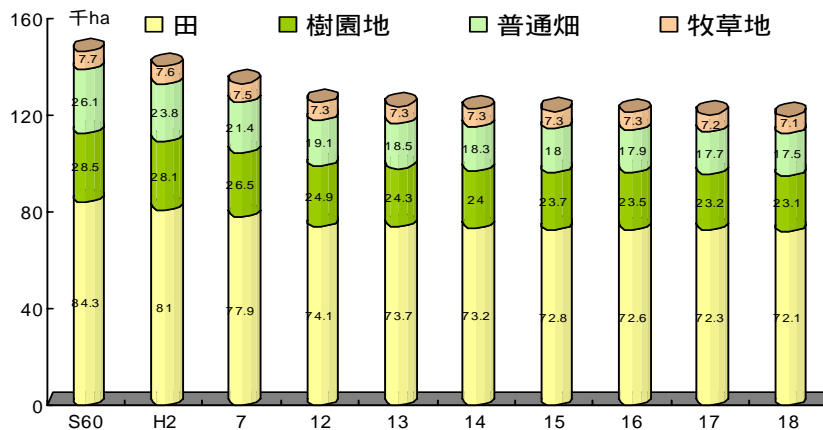


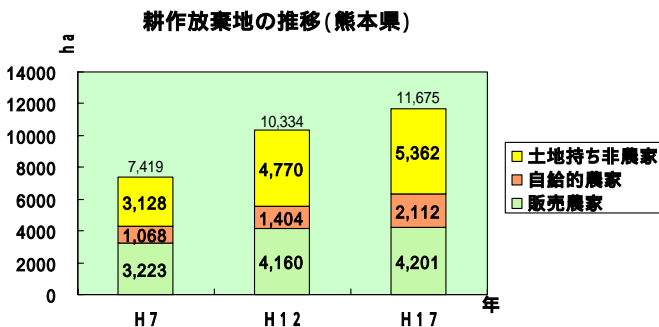
図 - 耕地面積の推移

資料) 農林水産省「耕地及び作付け面積」

4. 農村地域の現状

耕作放棄地の増加

農村地域の過疎化、高齢化等に伴う担い手不足により、耕作放棄地が年々増加し、平成17年度には全国で約38万haに達しています。本県においても、平成7年から平成17年度にかけて4,256haの耕作放棄地が増加しており、特に中山間地域や農家別では土地持ち非農家、自給的農家で顕著にみられ、これらをどう活用するかが今後の課題になっています。



資料) 熊本県農林水産部「熊本県農業動向年報」



耕作放棄地の状況

農業・農村の多面的機能(年間評価額は約2,400億円)

本県の農業・農村は、洪水の防止や水資源のかん養、自然環境の保全、さらには美しい景観の形成など、様々な機能(農業・農村の多面的機能)を有しており、国土を保全し県民の生命と財産、豊かな暮らしを守る重要な役割を担っています。



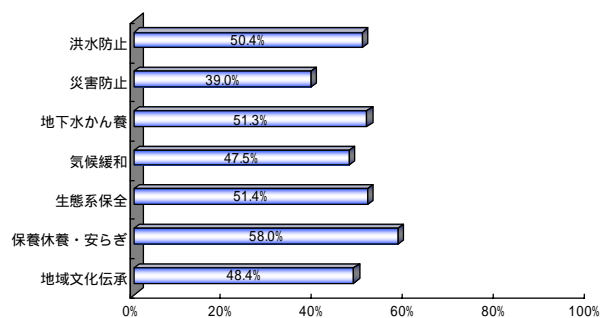
湛水(地下水かん養)の状況

農業・農村の多面的機能の評価(試算) (単位:億円/年間)

機能	全国	熊本県	構成比
洪水防止	34,988	1,277	52.6%
河川流況安定	14,633	309	12.7%
地下水かん養	537	9	0.4%
土壌浸食防止	3,318	78	3.2%
土砂崩壊防止	4,782	134	5.5%
有機性廃棄物処理	123	4	0.2%
気候緩和	87	2	0.1%
保健休養・やすらぎ	23,758	613	25.3%
合計	82,226	2,426	

「保健休養・やすらぎ」については、全国の評価額を耕地面積比で按分。全国額は、日本学術会議が行った農業の多面的機能の評価額

農業・農村が持つ多面的機能で知っているもの



資料) 2004年県民アンケート調査

5. 整備状況及び今後の整備目標

県内の農業農村整備は下表のような状況であり、水田の整備は平坦地域を中心に整備が進み、平成17年度までに73.1%の整備が行われています。

一方、畑のかんがい面積整備率は、国営菊池台地関連地域を中心に約23.5%の整備が行われています。

	平成17年度 まで	目標年 (平成22年度)	(参考)目標年 (平成27年度)	備考
田のほ場整備面積	43,300ha	44,000ha	44,800ha	農用区域(59,199ha) に対する整備率
水田の整備率	73.1%	74.3%	75.7%	
田の汎用化面積	4,900ha	5,500ha	6,600ha	
既整備田の更新整備面積	5,200ha	8,200ha	11,200ha	
畑のかんがい面積整備率	9,100ha 23.5%	10,200ha 26.4%	11,900ha 30.7%	農用区域(38,700ha) に対する整備率
既存ストックの有効利用により長寿命 化された基幹的農業用水路の受益面積	4,700ha	8,300ha	17,200ha	
農業集落排水処理人口	58,000人	82,900人	97,500人	
基幹的農道整備延長	662km	734km	766km	
海岸保全施設整備延長	41,300m	48,700m	55,200m	
ため池の整備箇所数	108箇所	120箇所	128箇所	
高潮のハザードマップ作成市町村数	1市町村	10市町村	14市町村	

資料) 農林水産部調べ

6. 基幹的農業水利施設の現状

県内の基幹的農業水利施設は、農業用ダム8箇所、頭首工約1,600箇所、基幹的農業用水路約700km等があり、本県農業にとって重要な水利施設として利用されています。しかし、この大半の施設が今後耐用年数を迎えることとなり、適正な保全管理による施設の長寿命化、あるいは施設の老朽度合いによっては更新整備を行うこととなります。

施設名	箇所数等	備考
農業用ダム	8箇所	
頭首工	約1,600箇所	
うち100ha以上	約60箇所	
基幹農業用水路	約700km	おおむね100ha以上の受益を持つもの
基幹農業排水路	約120km	おおむね100ha以上の受益を持つもの
排水機場	124箇所	排特及び湛防による排水機場
ため池	約2,300箇所	

資料) 農林水産部調べ

2 - 2 . 熊本県の農業施策

1 . 熊本県の農業施策

熊本県では、「創造にあふれ、生命が“脈うつ”くまもと」を実現させるため、平成12年度に「熊本県総合計画（パートナーシップ21くまもと）」を策定しました。

また、平成17年度には、「元気で明るい熊本づくり」に向け、市町村や農業団体、消費者、食品産業などとパートナーシップを組みなら、安全安心な農産物の提供を基本として、「地域の活力」を生かし「未来への希望」が輝く活力ある農業・農村を目指し「熊本県食料・農業・農村計画（元気いっぱい、輝く未来へ）」を策定しました。

さらに、平成18年度には、特色ある農業・農村づくりを進めるため、農業農村整備部門を具体化した「熊本県農業農村整備実施計画（だれもが暮らしやすく豊かな農村の実現をめざして）」を策定しています。

